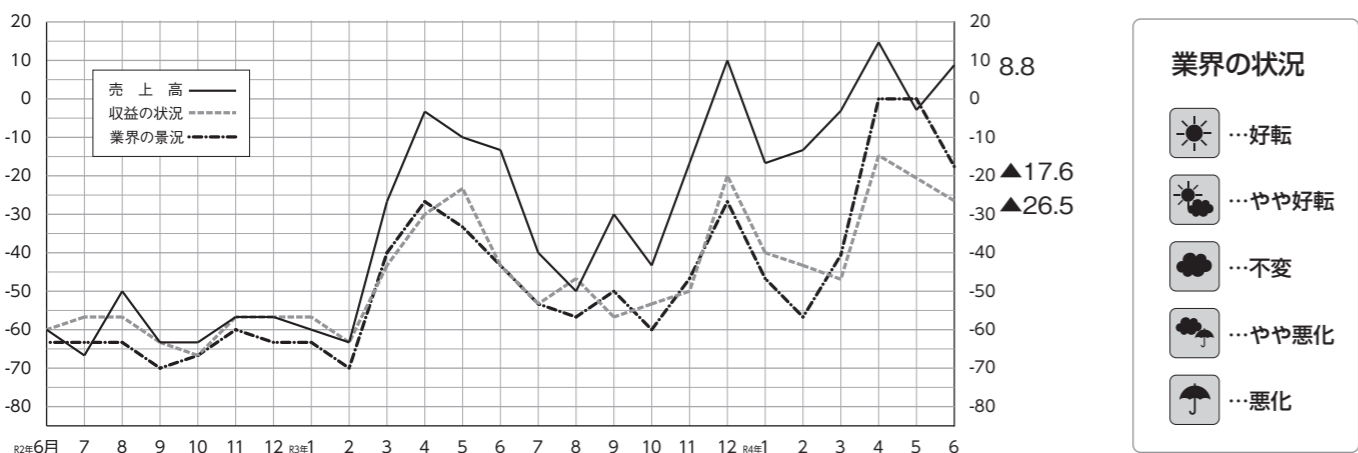




DI(景気動向指数)

情報連絡員報告



	旅館・ホテル	リカバリーキャンペーン、トク割等行政支援策の下支えやインターハイ受入などにより宿泊人数、予約は順調に伸びて好転したが、コロナ前と比較すると7割程度である。宴会部門の稼働はまだ回復が見込めない。コロナ以外では電気料金他エネルギー代金の高騰が大きな課題である。仕入れ物品の値上げも続き、様々な費用負担が増加している。
--	---------------	--

	食料品製造業(団地)	6月度商況は、前年に比べやや好転したが、力強さはまだまだ感じられない。食品製造業にとって、原材料、燃料、電気、資材等の値上がりに対応する自社余地はなくなっている。各事業所とも先行き不安が強くなってきた。
	酒類製造業	先月に続き市場の動きが活発化。県外出荷の好調が顕著。県外イベントも徐々に復活している。新型コロナウイルスの影響はまだ景況の復活には至らない。今後についても飲酒の習慣性に変化があると思われる。
	帆布製品製造業	コロナ禍ではあるが、各種イベント開催がされるようになり、イベント関連主力の事業所も回復基調、活気が戻りつつあるが、まだまだ厳しい状況。6月出荷分より、装飾テント、シート、諸材料代値上げ(10~20%)があった。販売価格への転化がスムーズに行えるか課題。
	生コンクリート製造業	6月の出荷量は、対前年比87.1%で地域的には中東部での減少幅が大きい傾向。生コン価格は、7月より2,000円から3,000円のアップの見込み。
	商店街(高知市)	中央公園地下駐車場 売上前年比122.4%、利用台数前年比115.4%。梅雨の期間が短かったこともあって、人出は徐々に増えているように思われる。アーケード内ではよさこい踊りの練習も始まっている。
	商店街(四万十市)	地元ではワクチンの安心感なのか日常生活にも慣れが出てきた。会合、会食が活動的になっている。週末など夜の飲食店にはにぎわいがあり、観光バスの往来も多くなった。夏の行事は縮小して開催予定。(土曜夜市は中止)
	普通洗濯業	ホームクリーニングでは、燃料・原材料高騰が続き、価格への転嫁が一段と進んだ。需要は回復傾向であるが、コロナ前の水準には到達しない。ホテルリネンは回復傾向、小宴会が始まってきた。病院リネンは堅調。新型コロナウイルスの影響でリモートワーク定着によるワイシャツの減少、外出着需要も控え目。今後はリモートワークは定着してきており、以前の需要回復は見込めない。

	木製品素材生産業	スギ・ヒノキとも価格に大きな変動はないが、相変わらずヒノキの出材が多く、少しダブっているが、スギ・ヒノキとも引き合いは強い。虫害については梅雨も短かったせいか、少なく影響は小さいが、秋口にかけて出てくる可能性がある。コロナも落ち着いており、木材価格には影響が少ないが、また最近増加傾向にあり、先行きは不安。
	一般製材業	国産材の動きは鈍いものの価格は高値圏で推移。輸入材は円安傾向止まらず価格上昇している。
	手すき和紙製造業	製造に関わるもの全部大幅な値上げに伴い、取引先に値上げ交渉のタイミングが取れず、厳しい状態が続いている。
	金属製品製造業(団地)	団地内の業況は、前年並みで推移している。一部事業所では、コロナ禍等による資材高騰や納期遅れの影響により、業績が下がっている。新型コロナウイルスの影響に関しては、上海ロックダウンの影響で生産調整する取引先あり。資材納品が停滞し予定が立たない状況。
	船舶製造・修理業	生産状況は引き続き高水準で推移している。新型コロナウイルスの影響は少ないが今後は感染者が増加傾向にあり、再び経済活動が停滞するの心配される。
	装飾品・同関連品製造業	6月の取引額は前年同月比102%と、コロナ禍前の水準までは至っていない。消費者の購買力が依然低調。

	生鮮魚介卸売業	カツオは順調に入荷している。マグロは近海で取れているが、良い品物が少ない。小物ではアジの入荷が少ないが順調。居酒屋関連が少し伸びている。宴会形式が変わりつつある。
	各種商品小売業(土佐市)	あまり状況は変わらず、人の流れも動く感じもなく、小売店に活気もなく、寂しい状況が続いている。土佐市の一大イベントの大綱祭りと港祭りの中止が決定し、残念がる声がかかれた。
	中古自動車小売業	展示車、在庫車の確保が厳しい状況。先月と比べると来店客数、問合せ件数が増加傾向にあるが、タマ不足により相場が高止まりしていると思うような仕入れが出来ない。
	旅行業	組合クーポン前年同月対比 5倍、全旅クーポンを加味して12倍の売上。学校団体旅行が5、6月売上を押し上げている。各旅行会社の友の会の利用売上も増加傾向であるが、全国旅行支援実施が延期になったことから、旅行業界の先行きは依然として厳しいと言わざるを得ない。
	情報サービス業	補助金申請などもひと段落した感じか。特に大きな動きもなく、受注動向などについても落ち着いており、これからの動きを注視する必要がある。新型コロナウイルスの影響に関して、補助金もひと段落か?夏に向けて活発化してくる業界からの問合せについては増える可能性もあり。
	一般土木建築工事業	セメント、骨材等原材料及び燃料・輸送費等引き上げにより、生コン価格も引き上げやむを得ず、連合会主導で実施。県下一円で、生コン価格の引き上げを4月より本格化。今回建設物価調査会、経済調査会共に積算価格を2,000円(高知市内は3,000円)引き上げとなった。但し、今年10月頃には、再度のセメント価格の引き上げが予想されており、引き続き厳しい外部環境は続くものと思われる。県下の生コン出荷数量は、4~6月累計で前年同期比93.9%、▲9,902.16m³となっている。新型コロナウイルスの影響は、感染者の増加による工事への影響が懸念され、今後感染者数が増加すれば、WITHコロナは、仕方なく、人手不足が一層深刻化すると思われる。

	機械すき紙製造業	県内家庭紙メーカーは、価格転嫁に努力しているが、それ以上に原材料等の高騰が続いており、厳しい状況である。
	印刷業	売上については原材料の高騰もあり若干上昇。県内需要は選挙関連、県外需要もイベント関連が徐々に回復しつつあり設備稼働度も微増。但し令和元年コロナ前と比較すると8割位の現状。又原材料等の値上げが2次、3次が予定されており先行きは不透明感が漂う。
	コンクリート製品	出荷数量は前年同月よりやや減少。令和元年5月分の出荷から西日本豪雨による災害復旧工事の発注により増加が続いていた。令和2年7月分以降は、増減を繰り返していたが、令和4年6月分は前年同月よりやや減少した。
	刃物・金物類製造業	受注残の品の生産が多くなり、まとまった品が納品できたため、売り上げは少しではあるが前年をクリアできた。しかし、まだ旧値の注残であるため、新価格の品は少ない。
	各種商品卸売業(団地)	・景気回復は感じられない。・ガソリン、仕入れ商品の値上げがあり、販売商品価格の転嫁が厳しい状況である。・各メーカーより値上げの要請が増えている。値上げのない商品がないような状況。・売上げは増加しているが、経費の増加もあるため、利益につながっていない状況。一方、新型コロナウイルスの影響で、売上げの減少の影響も出つつあり、コロナ治療薬の承認を急いでほしい。
	青果卸売業	業務用の需要は、過去2年間に比較すると回復しているが、コロナ禍以前までの水準には達していない。量販店、小売関係は、コロナ特需の反動で、売上高は前年対比で減少傾向である。
	電気機械器具小売業	全商品平均で前年比97%。半導体不足により、白物家電の品不足状態が続いている。
	ガソリンスタンド	ガソリンの元売り仕切り価格は週単位で変わる。今までは変更があっても、1円とか2円の変更だったが今は、5円以上の変更があり、先週6円の値上げで今週は8円の値下げとかがあり、そこに激変緩和対策事業の補助が入ってくる。全国的に市況価格に転嫁できているところとできていないところがあり、価格差が大きくなっている。新型コロナウイルスの影響では、一時期回復に向かっていると思われたが、ここにきて再び感染が増えてきており、県外への行き来がなくなれば、ガソリンの販売数量にも大きく影響がある。今後は感染の規模にもよるが世界的感染となれば、原油価格にも影響が出る可能性もある。
	商店街(安芸市)	6月26日(日)に、農林商福と連携し「軽トラマルシェ」を開催。多機能型事業所「TEAMあき」の駐車場にて実施。ナスの詰め放題のほか、商店街や地元事業所、JA女性部、さらにキッチンカーも出店。ナスの詰め放題をした方には商店街で使える50円商品券をプレゼント。商店街でもお買い物してもらえるように工夫。延べ約500名が来場。新型コロナウイルスの影響に関しては、感染者数の増減によって、人の流れに変動がある。感染者数が多い地域と違って、地元で感染者が一人でも出ると警戒する人が多い。ここ数日、感染者数が増えてきているので心配。今後についてもここ数日の感染者数が一気に増加してきているので、第7波による規制等が起こるのではないかと心配している。
	飲食店	前月と比べ売り上げは大きく減少、前年同月をやや上回る程度の売り上げ。例年(コロナ禍以前)との比較は6~7割程度、光熱費や仕入れ価格の高騰がさらに拡大、少ない収益を圧迫し更に厳しい状況。集客減や売り上げの低下などの影響を受けている。今後に関しても 業界(県内事業主)の規模が縮小することが予測される。
電気工事業	組合員の施工する電力引込線工事は、前年同月比132.5%となった。高知中央地区が減少したものの香長、安芸地区が増加した。材料価格の高騰により今後の経営に影響が危惧される。	
	一般貨物自動車運送業	燃料価格高騰はますます厳しくなっている。政府補助金を入れても6円半ばの値上げ幅となった。また6月に入って荷動きが更に鈍化した感があり、組合員企業は非常に厳しい経営を強いられている。新型コロナウイルスの影響から、荷動きが悪く売上が伸びない。今後も荷動きが戻らなければ収益が落ち、経営を圧迫する。

	建具製造業	仕事量が少ない。見積も少ない。
	一般乗用旅客自動車運送業	実働1日1車当りの前年同月比営業収入:124.6%、輸送回数:114.3%、実働率は51.3%。少しずつ利用客が戻り、8割型回復したという事業者もあり、新型コロナウイルスの意識が薄れた感もある。が、運転者は戻ってこない。現在の影響としては運転者が高齢化でやはり新型コロナウイルスを恐れて、労働時間を短くして帰ってしまうのが常態化している。